野川流域とは

野川流域は、野川と支川の仙川、入間川に雨が流れ込む約70km²の範囲をいいます。
野川は、東京都国分寺市の日立中央研究所内の大池を源とし、国分寺崖線沿いに小金井市、三鷹市、調布市、狛江市を経て、世田谷区二子玉川付近で多摩川に合流する延長20.2kmの河川です。

位 置 図　　流 域 図

野川の整備現況（調布市）

仙川の整備現況（三鷹市）

入間川の現況（調布市）

流域の特徴

野川流域は、昭和30年代から40年代初めにかけて急速に市街化が進み、水田が宅地化するなどしたため、頻繁に浸水被害が発生しました。これに対処するため、都では河川改修および調節池の整備を進めた事で、近年水害は減少しましたが、平成17年の集中豪雨では溢水による浸水被害が生じました。

一方、野川は河道内を散策でき、三鷹市、小金井市付近では、都立公園と河岸の一体整備により、水辺に親しめる河川です。また、多様な生態系を有しており、市民による観察会等のイベントも行われています。ただ、過去には瀬切れが発生するなど、生態系の維持に不可欠な水の確保が大きな課題でもあります。

公園との一体整備（野川・小金井市）

河川整備の目標

野川流域では、洪水に対する安全性を向上すると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、野川、支川の仙川、入間川の全川です。
計画対象期間はおおむね30年間とします。

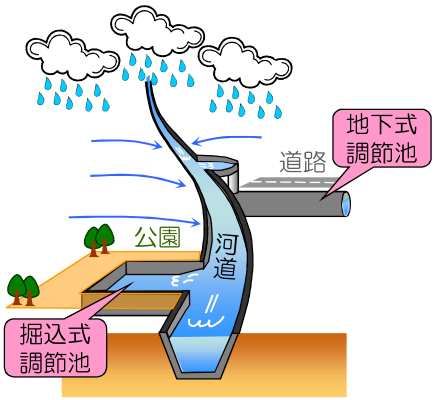
河川整備計画の主な変更ポイント

変更の背景

近年、都内では、現在の中小河川の目標整備水準である1時間あたり50ミリを超える豪雨が増加し、それに伴う水害が頻発していることから、これらの豪雨に対処していくための新たな治水対策が喫緊の課題となっています。そのため、東京都では、「中小河川における都の整備方針～今後の治水対策～」(H24.11)において、目標整備水準を多摩部では時間最大65ミリの降雨（年超過確率1／20）に引き上げました。

変更内容

＜洪水対策＞
1時間あたり50ミリまでの降雨は河道で対処することを基本に、これを超える降雨には新たな調節池の整備や既存調節池の規模拡大を行うことで、流域対策も含めて、1時間あたり65ミリの降雨に対応することを目指します。



調節池への流入状況
（野川大沢調節池　平成25年8月12日）

掘込式調節池の例（野川大沢調節池）